

○【阪口委員長】 引き続き、すみません、阪神国際港湾のほうですかね。こちらのほうの経営評価について、所管所属から御説明をお願いします。

○【大阪港湾局】 それでは、阪神国際港湾株式会社の令和２年度経営評価について説明させていただきます。

同団体は、中期目標におきまして、大阪港において外貿埠頭の利用を拡大することで、貨物取扱量を増大させること、また、フェリー航路数を維持することとしております。中期目標期間でございます令和２年９月１日から令和７年３月３１日において、外貿埠頭の利用拡大により貨物取扱量が増大している状態、また、フェリー航路数が維持されている状態としております。これらを達成するために取り組む内容としましては、取組－１としまして、国内事業者向けセミナーの開催及び海外ポートセールス活動の実施、取組－２としまして、ガントリークレーンの新規整備及び更新整備を行う。取組－３としまして、コンテナ埠頭周辺の渋滞緩和に向けた新・港湾情報システムを導入すること。取組－４としまして、大阪市が実施するフェリー振興策である市民を対象とした大阪湾クルーズへの協力を行うことと、団体のノウハウを活用し、フェリー振興策に取り組むこととしております。

それでは、まず、様式２の各取組から説明させていただいた後に、様式１に戻って説明させていただきたいと思います。

取組－１の達成状況は、国内事業者向けのセミナーにつきまして、新型コロナウイルス感染症の影響により開催ができなかったところ、代替策として、ウェブを活用したセミナーの開催を予定しておりますので、目標未達成ながら、取組は予定どおり実施となっております。海外ポートセールスにつきましては、こちらも新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見送っており、代替措置も実施できていないため、目標未達成で取組を予定どおり実施しなかったとしております。

外郭団体の自己評価としまして、新型コロナウイルス感染症の影響により、従前の方法によるセミナーやポートセールスが実施できないことから、オンラインを活用し

たウェブセミナーの開催や電話、メール等による個別の集荷事業説明といった活動を展開し、今後は状況を見極めながら継続的に検討していくこととしております。全体としては、目標未達成であり、取組を予定どおり実施していなかったとしております。

本市審査としまして、新型コロナウイルス感染症の影響があり、計画どおり活動ができなかった中において、代替策としてウェブを利用したセミナーの開催や電話、メール等による個別の集荷事業説明を実施する等の取組を行っているものの、全体としては、目標未達成で取組を予定どおり実施できていないと考えております。中期目標の達成に向けては、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた中で、効果的なポートセールスを展開していく必要があるものの、代替措置を含め、現状の取組を継続することが有効であると考えております。

取組－２の達成状況は、当初予定していた夢洲における高規格ガントリークレーン２基の新設整備理由が、クレーンの耐用年数を考慮したものではなく、利用状況に応じた更新であったことから、新型コロナウイルス感染症の影響による船会社の配船計画の見直しにより、本計画を見直さざるを得なくなった一方で、令和３年度に整備完了予定であった咲洲のガントリークレーン１基について、利用者サービス向上のため、１年前倒しで整備を完了したもので、当初目標の観点においては、取組を予定どおり実施しなかったものと考えております。

団体の自己評価としましては、クレーンの新規整備に着手できなかったことから、目標は未達成であり、取組も予定どおり実施できていないとしております。その一方で、過年度から整備を行ってきた咲洲のガントリークレーン１基を利用者サービス向上のために１年前倒しで整備を完了したとしております。最終目標達成に向けては、今後も新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な状況が続くことも想定されるところですが、引き続き大型船の誘致に向けて、事業者との協議を継続していくとともに、中期計画に基づいた整備に取り組んでいくこととしております。

本市審査としましては、前倒しでガントリークレーン１基の更新整備を行ったこと

は評価できるものの、本年のクレーン新規整備着手を見送る結果となったことから、目標未達成であり、取組も予定どおり実施できていないと考えております。中期目標の達成に向けては、大阪港への大型船の寄港が、その目的達成に寄与するものであり、そのためには高規格ガントリークレーンの整備が必要となるので、取組としては有効であり、継続していくものと考えております。今後は、事業者との協議を継続し、大型船を含めた配船計画が実現できるよう、調整状況等の報告を適宜受けるなどしながら、団体監理を行っていきたいと考えております。

取組－３の達成状況ですが、新・港湾情報システムの導入に向け、関係者との調整を完了し、目標を達成しております。

団体の自己評価としましては、来年度に予定しております新・港湾情報システムの試験運用を開始するため、導入先となる当該ターミナル運営者と協議を行い、試験運用への参画意思が確認できたことにより、目標を達成したとしております。また、システムを運用するための携帯端末用アプリ開発の概略設計も完了したとしております。最終目標の達成に向けては、新・港湾情報システム導入先のターミナル運営者及び関係者の理解を得ることが必要であり、次年度において試験運用に向けた協議を調えることとしております。

本市審査としましては、今年度試験運用開始に向け、ターミナル運営者から参画の意思確認を行えたこと、システムを運用するための携帯端末用アプリ開発の概略設計も完了していることから、目標達成と考えております。中期目標達成に向けては、当該システムがコンテナ埠頭周辺の渋滞緩和に寄与することから、この取組は有効であり、今後も計画に沿った事業推進を行っていくよう、適宜団体から報告を受けるなどしながら、必要な監理を行っていくこととしております。

取組－４の達成状況ですが、本市が主催する大阪湾クルーズへの協力が、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年度計画策定時から既に今年度については実施しないこととしておりましたので、目標及び実績ともにゼロ回となっており、目標達成と

させていただいております。団体が行うフェリー振興策につきましては、計画にある4項目全てを実施し、目標達成しております。

団体の自己評価としまして、本市主催事業が中止になり、協力できなかったことから、コロナ禍において実施可能なセミナーの準備を本市とともに取り組んできたところ、それもまた中止になったため、関係者間で次年度以降の実施方法に係る検討を行ったとしております。一方、団体独自の取組としまして、目標としていました4項目、全て実施できており、それに加えて、2項目の追加の取組を実施しております。よって、どちらの項目も目標達成としております。

本市審査としましては、本市事業への協力については、本市事業を中止したため、協力要請を行うこととはならず、次年度以降の実施方法について、本市と関係者間での検討を行っております。当初目標である4項目に加え、さらに2項目の取組を行っており、目標達成していると考えております。中期目標の達成に向けましては、今年度も実施した様々な取組の継続がフェリー航路数の維持に寄与するものと考えておりますので、有効であり、継続して取り組むこととし、本市としても引き続き必要となる監理を行っていくこととしております。

最後に、様式1のほうにお戻りください。様式1の当該事業年度全体の評価としましては、団体の総合的な自己評価として、新型コロナウイルス感染症の影響により、セミナーやポートセールス関係をはじめとし、一部の取組が実施できなかったこともあり、取組結果としては遅れがあったものの、一方で、セミナーの代替措置として、ウェブ等を活用したセミナー開催の決定や既存ガントリークレーンの前倒しでの更新整備の完了、さらには、フェリー航路数維持に係る団体独自の取組については、予定していた項目に加え、追加項目まで実施できたとしております。最終目標の達成に向けては、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、必要となる施設整備やシステムの導入について、計画に沿って進めていくとともに、事業者支援等の課題解決に向け、より効果的な支援策等を模索し、取組を進めることとしております。

本市評価としましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標どおり進捗した取組と、遅れが生じた取組があったものの、遅れた取組においても代替策を講じるなどし、また、目標どおりに進捗した取組においても追加の取組を実施できていたと考えています。中期目標の達成に向けては、当該取組を確実に実施することと、継続した取組を行っていくことが有効であることから、引き続き団体の取組に対し、必要となる監理を行ってまいります。

以上でございます。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○【阪口委員長】 ありがとうございました。

それでは、こちらのほうについて、委員各位から御質問、御意見ありますでしょうか。

○【野村委員】 野村からお伺いします。

この取組の中で、地元、現地訪問している海外ポートセールスですかね、これができてない中に入っていて、代わる対応策を検討していくということなのですけども、ちょっとほかのセミナーとかと違って、なかなか代替策というのが、現地の方々にオンラインでセールスできるのであればいいんですけど、難しいかなという感じがするんですけど、この辺りはどんな対応策というのが考えられるんでしょうか。

○【大阪港湾局】 海外ポートセールス自体が阪神国際港湾株式会社、本市、大阪港埠頭株式会社、それから、大阪港振興協会、地元の港湾運送事業者でポートセールス団を結成しまして、それぞれの団体のトップが成長著しい東南アジアをターゲットとして年1回、戸別訪問して、直接顔を見合わせてトップセールスするという大きな目的として行っています。今回、こういう状況で見送っておりますけども、何もしないというのはそれはよろしくないと思いますので、今できることということになりますと、ウェブであったとしても直接会話するということはやっぱり何もしないよりはずっといいと思いますので、その辺りは、例えば今申し上げているウェブ実施も含めて、何かポートセールス、効果的な展開をやるようにちょっと団体に言ってい

く、そんな状況でございます。

○【野村委員】 ウェブ実施となると、現地の方々との調整も要るので、まだちょっと実施には至ってなくて、今検討段階という感じでしょうか。

○【大阪港湾局】 そうですね。おっしゃるように相手方があることですから、相手の都合が整い次第、こちらのメンバーがそろっているというものありますし、どういうやり方ができるかというのは、ちょっと効果的になるように考えていただくということになると思います。

○【野村委員】 ありがとうございます。

○【清水委員】 こちらも、阪神港セミナーがコロナの影響で秋開催ができなかったということで、最終的に今月ですか、2月上旬から行う、オンライン、録画方式ということを決めた。これもちょっと後発事象的かなとも思ったんですけど、これ自身は、だから、12月に決定したからここに書いてるという理解でよろしいんですかね、そういうことをするの。なので、それも抱き合わせで、ゼロだけでも、進捗状況としては代替策を取ってるんで、「ア」ですよと、そういう評価につながっているということですか。

○【大阪港湾局】 おっしゃるとおりです。

○【清水委員】 私もポートセールスはなかなかオンラインでどこまでかというのは難しいと思うんですけど、やはりいろいろジェットロとか、最近のNHKとかの報道番組とか見ても、オンラインで結構売り込みをかけておられる、ポートセールスじゃないんですけど、事例も結構あると思うので、積極的にトライしていただければと思っています。

それと、取組状況のガントリークレーンなんですけども、結局、これも事業者のほうで、実際のところ、配船計画見直しで、結局、タイミング的には早過ぎるということで、ずらされたということでしたね。これは、費用の調達というのは、それはそれとして、中期期間内にする前提で、そういう国とかの資金調達についての調整はもうあ

る程度、する前提で入っているという理解でよろしいんですか。

○【大阪港湾局】 今年度やる予定だった分が、結局できなかったということなんですけど、中期計画期間内に、今年度使う予定だった分も含めて、計上していくということ含みで、達成見込みの形にさせていただいております。

○【清水委員】 日本だけじゃなくて、全ての世界的な影響だと思うので、ガントリークレーン2基導入で、実際その貨物の取扱いですかね、コンテナの、それ自身、設備は入れたけど、実際稼働が非常に低いとか、そういうリスクは今のところないので、導入するという判断でよろしいですか。

○【大阪港湾局】 こちらの今、今回問題にしている部分については、船社さんの大型船導入に併せてガントリークレーンを高規格化しますので、御懸念されているようなことは起こらないと考えております。

○【清水委員】 大型船導入が見合せになったら入れないという形。

○【大阪港湾局】 その場合に、例えば見切りで高規格化を進めると、委員御指摘のことが起こり得るかと思いますので、その辺、見極めながら進めてまいることになると思います。

○【清水委員】 分かりました。

○【大阪港湾局】 委員おっしゃるように、大型船の需要といいますか、その辺がどうなったというのは、配船、船社の都合というのは、それは需要というのを意識しながらやらないといけませんけど、やっぱり根底に流れてますのは、世界的な潮流でどんどん船が大型化になっていくと。コストが、大型になるほどコンテナ1個当たりの単価が安くなっていくというのは、船の宿命になってますので、そういう社会の時代の流れで、あんまり乗り遅れますと、大阪を外して、違う港に行くということもありますので、その辺も意識しながら、船会社のニーズをしっかりと確認しながら、適切な整備をしていかなければと考えております。

○【阪口委員長】 一般の方が傍聴されてるからじゃないけど、若干甘く感じるよ

ね、多分ね。ニュアンスとしてですね。コロナというのがあって、仕方がないという面も、それはあるわけだけど、自己評価があって、自己評価に対して、市の評価としても、しょうがないねという、分かるんだけど、何かそうかなというところも感じないではないというのが一つですね。あと、最後は貨物取扱量の増大というのが最終あれなんだけど、今、どうなんですか、例えば大阪港の数字自身が、例えば他の、東京なりなんなりと比べて、より落ち込んでいるとか、何かそういう傾向とか、何かそんなんあるんですか。その辺、ちょっと実態、最終のところの数字だから、直接それによってこの取組がどうこうなるわけじゃないんだけど、傾向として何か影響があるのかどうかも知りたいんだけど。

○【大阪港湾局】 外貿コンテナの取扱貨物量なんですけども、コロナの関係で、特に2月が一番大きく下がってまして、それは、もうどこの港でも同じですね、2月が大きく前年同期でもう2割以上減というふうになってますけど、大阪港の場合は、3月にはほぼ前年並みになってまして、その後、3月以降、持ち直しの傾向にございまして、令和2年の1月から10月の実績で、前年度比較で約2%減となっています。同じ時期で、東京港でありますと6%減で、横浜港では12%減、名古屋港は15%減、神戸港は7%減というところを見ますと、比較的健闘はしているのかなというふうに思っております。

○【阪口委員長】 分かりました。

よろしいですかね。

じゃあ、すみません、この経営評価に関する質疑応答そのものは終わりたいと思います。

ここで、退室で。

さて、それぞれありますが、どうしますかね。トランスポートは3月末までできるなら、それはそれでというところなんですけど、今おっしゃった重要な後発事象的な扱ってないですよ。ちょっと、さっき、この経営評価のところも見てたんだけど。

○【清水委員】 だから、この評価の流れでいくと、次年度につながってくところ
ろでまた出てくるという形ですか。

○【阪口委員長】 そうですね。一応ルーチンというか、それでいくと、ここでき
きた、できへんも見て、次のところ見ていく。また、たまたま3月末ぎりぎり、年度
末そのものに滑り込んだら、次のところでよかったねという、こういう処理になると。
ただ、ずれて、入り込まなかったら、年度末過ぎてしまったら、次がまたより苦しく
なるという、こういう感じですよ。

○【清水委員】 だから、全体の枠組みの中ではそういう扱いで、割り切ってやれ
ばいいのかなと。相手のある話ですからね。

○【阪口委員長】 まあまあ、そうなんです。

○【清水委員】 さっきのセミナーのやり方、切り替えたとかいうのは、法人独自
で決めれば、その時点で記載していいと思いますけど。

○【阪口委員長】 しかも、先生御指摘のとおり、集客が下がるから、当然、状況
も悪くなるのは当たり前なんで、ただ、その答申としては、ここでは、どういうふう
にすればいいんですかね。3月末までにできるちゅうんやったら、それはこの評価も
ありだということに尽きるんですかね。何かできるならよしみみたいな感じの、ちょっ
とどういう答申になるのかなと思って。

○【清水委員】 別表1の全体の当該年度の評価としては、「イ」の遅れありで、
正直に書いてるので。

○【阪口委員長】 まあ、そうですね。

○【清水委員】 そこが「ア」だと、ちょっとという話なんでしょうけど。だから、
まあ。

○【阪口委員長】 この評価そのものはいいいということになるんですかね。

○【清水委員】 だと思いますね。

○【阪口委員長】 これが、しかし、あれですよ、例えば3月末越したら、

「イ」のレベルを超して、直ちに「ウ」になるかどうか分かんないけど、「ウ」に入りかけるわけじゃないですか。だから、ただ一応、大分手応えはつかんでる感じでしたかね、今の、何か、協定書までまく言うてはんねんから。

○【清水委員】 ある程度はね。

○【阪口委員長】 ある程度できてるでしょうね。今の段階で、まだどんなにか分からんといったら、協定書の話にもなりませんからね。

なら、経営評価としては、「イ」で、遅れてるけど、計画の見直しまでは、全然今のところそこまでいかないの、それはそれで「イ」かねという評価に対して、市の評価もそうだと。特にこれは、この経営評価に対する答申の答え方としては、問題ないものとするか何か、そんな形ですか、表現としては。どのパターン。

○【小松法人担当課長】 特に意見がなければ、意見なしということで。

○【阪口委員長】 意見なしという答申でもいいんですか、ここはもう。

○【小松法人担当課長】 はい。

○【阪口委員長】 じゃあ、こちらのほうのтранспортシステムのほうは、もう意見なしにしましょうか。

○【小松法人担当課長】 補足させていただきますと、транспортシステムにつきましては、中期計画がまだ策定されてない団体ですので、今後、今回の評価結果に基づきまして、来年度以降の中期計画を策定して、その中期計画に基づいて来年度の年度計画をつくるという流れになります。中期計画策定するに当たりましては、また、評価委員会で御審議いただくという形になりますので、今回の結果を反映した中期計画ということで、もう一度評価委員会で御議論いただく場というのはございます。

○【阪口委員長】 要するに本当にスキームができたという中での中期計画でないと意味がないじゃないですか。だから、その段階でもう一遍その話をしてもらって。もし、万一そこで、いや、実はまだずれ込んでまんねんと言われたら、ちょっともうその話にならへんけど。それは、現時点では意見なしということになるんですか。

よろしいですか、もうトランスポートに関しては。一応できる言うてはんねんからということにしましょうか。

じゃあ、トランスポートに関しては意見なし、もしくは、問題ないものと思料するか、ちょっと表現はまたあれしますが、とにかく、特にこの評価はおかしいという指摘はないよということにしましょう。

阪神国際港湾のほうですけど、これはどうしますか。努力しておられるのも、それは分かるんだけど、何かちょっと大丈夫かなというところも含めて、この評価、これも「イ」だから、よしにしますか、計画の見直しまではいかないからね。そこまではいかないという意味ではそうかな。何かちょっとコロナだから仕方がないという、何かそんな感じにも読める。途中のところのできてますいうのも、それでいいのかというところもあるのはあるんですけどね。達成状況、代替策講じというのは、それは本当にいいのかどうかというね、そこは。取組－４。

○【清水委員】 取組－４の、ちょっと聞き漏らしてたんですけど、フェリーのこのＲ２年度の目標がゼロ回というのは、これはもともとゼロの設定されてたということ。

○【阪口委員長】 指標１のほうはゼロだったんじゃないんですかね。

○【清水委員】 もともとゼロなんですかね。

○【小松法人担当課長】 もともと、計画立てたときにコロナの影響がありましたので。

○【清水委員】 最初からゼロにしてた。

○【小松法人担当課長】 今年度についてはゼロということにしております。

○【清水委員】 だから、ゼロで達成。

○【阪口委員長】 いや、だから、それを達成と言う、何か問題の書き方がおかしいよね。そなん、じゃあ、１回やったら、不達成なんかって。そなんわけないやろうという。

○【清水委員】 ちょっとここは実際どうかなと思うけど。全体として、「イ」で、遅れありですから。

○【阪口委員長】 全体にはね。いや、だから、先ほど僕ちょっと申し上げたけど、「イ」そのものはいいんだけど、何か全体的に甘い感じがするんだよね、ちょっとね。何か書きぶりに対して、まあ、しょうがないんじゃないのみたいな感じの、団体がそう言って、それに対して。

○【清水委員】 多分、次の年度もそれなりにコロナの終息のタイミングがそれほど楽観的には見られないと思うし、ワクチンの効果もまだ分かんないし。

○【阪口委員長】 そうです。

○【清水委員】 であれば、同じようなイベントを企画されているものは、野村委員もおっしゃったように、同じコロナを言い訳に、しなかったというのはもうできなくなると思う。それは当然、P D C Aで次年度はそれに対応することを考えていただくのだろうなとは思っているんですけど。

○【阪口委員長】 それが明確になれば、もちろん計画の見直しになってくると思うんですよね、むしろね。もうちょっと具体的なものを見直せという話になってくると思う。今、そこまで、僕らもコロナが令和3年度に関してどこまで影響が、いつまで影響があるかって誰も読めないから、何か見直せとまでなかなかちょっと言いにくいんだけど、しかし、かなり危機的と言うと大げさだけど、計画見直しにちょっとずつ近づいていってしまってるんじゃないかなという、今回、この言い訳を使うと、もう次は言い訳使えないよという、何かそれをちょっと言ったほうがいいんですかね。

○【小山法人担当課長代理】 確かに今回の結果を受けて、P D C A回していく上で、次の、年度計画でどうリカバリーするのかとかいったあたりのことを、しっかりやるようにというような評価をもう少し市としてもいいようなところは、恐らく委員長が感じられている部分って、きっとそういうところなのかなと思うんですけども。

○【阪口委員長】 できへん、できへんって、今回はいいけどね。

○【小山法人担当課長代理】 団体のほうで模索し、取組を進めると言っていて、具体的なものがない中で、何となく追認しているような感じがある中で、ここはあまり市として押さえにかかってないように見えてるというところがちょっと引っかかっておられるのかなというふうに思ったんですけど。

○【阪口委員長】 それを、もし何か答申で言うとしたら、あれですか、今年度に関しては、今年度の評価そのものとしては、やむを得ない面もあるが、次年度以降のことを考えたときに、取組、監理を強化するという表現いいかどうか分かんないけども、見直しも含めて再検討するよう何か指導すべきだみたいな、何かそんなのというのは書けるんですかね。これは僕の本当に感想にすぎないかもしれんけど、ちょっと甘いというか、何となくできませんと言われたら、分かりましたって。何かもうちょっと何か言えないのかなという感じがするんだけどね。実態はやっておられるかも分かんないよ、実態はやっているのかも分からないけど、この文面だけ見ると、できません、分かりましたというので終わってて、来年度、大丈夫なのという。

○【谷川総務局長】 ちょっとよろしいですか。

○【阪口委員長】 はい、どうぞ。

○【谷川総務局長】 今、PDCAの流れの中で言いますと、今回はCの段階で、来年度の年度計画というのをまた早々に策定していただいて、この委員会の意見を聞くというプロセスがございますので、そのときに、きちっと今年度の行く末を見極めた上で、リカバリーになるのか、見直しになるのか、そこも含めて、きちっとしたもんを出してくることというくぎの刺し方をしておいて、そのタイミングでもし何か中身に、新しい年度計画に何か御意見があれば、またしっかりおっしゃっていただくという、そういうのがこの流れの中では、一つのやり方としては想定されるのかなというふうにはちょっと考えてます。

○【阪口委員長】 もともとあえて3か月前にしているというのは、そういうことでしょ、3か月前に一旦経営評価やって、それを次の年度に生かしていくという、そ

ういうあえて3か月前倒しちゃうんですかね、にしているわけだよね。だから、そういう意味でいうと、今、局長おっしゃっていただいたとおり、年度計画に適切に反映されたいとか、何か年度計画において適切に報告いただきたいとか、何かそういうものですかね、今のだとね。今はあかんとは言わんけど、次、ちゃんとやれよという、そのニュアンスだけだよね。しかも、そのとき、ちょっと僕はあれだから、もちろん次の委員の方々がまたそれは考えることなんだと思うんだけど、今ちょっとくぎ刺しときたいという気持ちはあるんだよね。今ので、何か答申、ある程度案、原案できますか。

じゃあ、そういう、こちらの阪神国際港湾に関しては、単に問題がないという答申ではなくて、評価そのものは、それはあれかもしれんけど、次に向けて適切に指導されたいとか、次の報告でちゃんとできるようにされたいとか、次を向けた表現で考えたいと。

○【小山法人担当課長代理】 そしたら、あとは、委員長一任ということで。

○【阪口委員長】 ああ、そうだね、形式的には、すみません、もちろんメールでやり取りするけど、最後は、細かいことはもう委員長一任で、申し訳ないけど、お願いします。

○【小松法人担当課長】 水道局呼んできますので、しばらくお待ちください。